



地域とともにある学校を

校長 田邊 雅也

コミュニティ・スクール 学校運営協議会と6年生の連携授業

今年度から本校では学校運営協議会(コミュニティ・スクール、委員8名)が動き出しています。まだ馴染みのない名称かもしれませんが、全国的にこうした活動が始まっています。学校と保護者、地域の皆さんがともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させ、協働しながら子供たちの豊かな成長を支えてくという「地域とともにある学校づくり」を進める法律(地教行法第47条の5)に基づいた仕組みです。

本校の学校運営協議会委員のひとりである尾池 富美子 委員は、六小学区にある認定・埼玉県指定NPO法人 メイあさかセンター(以下:メイあさか)の代表理事でいらっしゃいます。この度、地域の教育力を子供たちに還元させるため、メイあさかと6年生が連携し、道徳と総合的な学習の時間の授業が9月12日、13日、26日に行われました。

マレーシアとの絵の交流はなぜ35年も続いたのか

道徳の授業では、教科書ではなく、尾池委員の語りが教材です。1987年からマレーシアとの間で開始された絵の交流に関する話です。35年間は、子供たちにとっては想像もつかないような年月です。朝霞第四小学校とマレーシアのある学校との交流が最初でした。交流の輪は少しずつ広がり、朝霞市の全ての小学校はもちろん、マレーシア全体でも、多いときで5州9箇所にまで広がっていきました。現在でも3州5箇所です交流が続いています。国全体でも、既に500校と交流し、特にペナン州では300校も交流が続いています。本校の保護者にも、絵の交流に参加した方や、実際にマレーシアを訪れた方もいて、親子二世代にわたっています。なぜ、文化も言語も違うのに、両国の子供たちの交流が35年も続いているのでしょうか。

「真心」は相手の心を揺さぶる

「子供たちが主役、という思いを常にもっています。」とすぐに尾池委員は口にされました。子供が心をこめて製作した作品は宝物として、協力してくれた子供たち全員に「感謝状」を贈っています。メイあさかでは、たくさんの工程を経て、作品の思いをお互いの言語に翻訳し、丁寧に梱包します。ひとつの作品も損傷することなく、船便でも航空便でもなく、直接、マレーシアの人々に手渡しすることを貫き通してきました。顔が見える心が通い合う交流にこだわったのです。日本とマレーシアの子供たちの「真心」を届けたい、というメッセンジャーとしてあり続けたメイあさかの35年です。その「真心」に、市民のみならず、各州の国王や大臣も賛同しました。「真心」は、国や人種、言語も関係なく伝わりました。携わった人々の心に強く訴えかけ、揺さぶったのだと感じます。真の国際理解です。

問題解決の連続こそ、未来を拓くのに必要な力

「くじけそうなときは、どうしたんですか。」とよく聞かれるそうです。「この35年はうまくいかず、くじけそうなことばかり。困って悩んだときは、自分の心の神様に夢中でお願ひするしかありません。なんとか乗り越えたい、なんとか友好をつなげたいと願ひ、どうしたらいいのかが相談すると、いつも必ず誰かが助けてくれたのです。」と尾池委員。授業で語りつくせないくらいに紆余曲折ばかりだったそうです。「真心」を大切にしているメイあさかの活動に対し、マレーシアと日本の大勢の人々が賛同していたからこそ、尾池委員の役に立ちたい、と考える方がいらっしまったのだと思います。

子供も大人も悩んだ経験のない人はいません。尾池委員は、「真心」をいつも中心に据え、問題をどう解決し、皆がウェルビーイングを感じる最適解や納得解を見出してきたのだと思います。価値ある素晴らしい35年間だと思いませんか。こうした問題解決の連続は、未来を拓いていく子供たちの人生に必要な学びと言えます。

地域の力をエネルギーに教科書だけに頼らない学びを

この一連の学びから、6年生は卒業までに、どう感じ、何を学び取っていくのでしょうか。道徳、図画工作、国際理解教育、キャリア教育などを総合的に捉えた学びであると同時に、初めて学校運営協議会と協働した意義ある教育活動となりました。

もちろん、保護者、地域、学校応援団、PTA活動のこれまでのご尽力が基盤となっているの言うまでもありません。地域の教育力をエネルギーとして、教科書だけに頼らない「生きて働く力」が身につく学びを今後も展開できればと思っています。

学校運営協議会でさらに熟議を重ね、「地域とともにある学校」として「自律と探究」の教育活動を実現していきたいです。限定公開YouTubeでもお伝えしていきます。